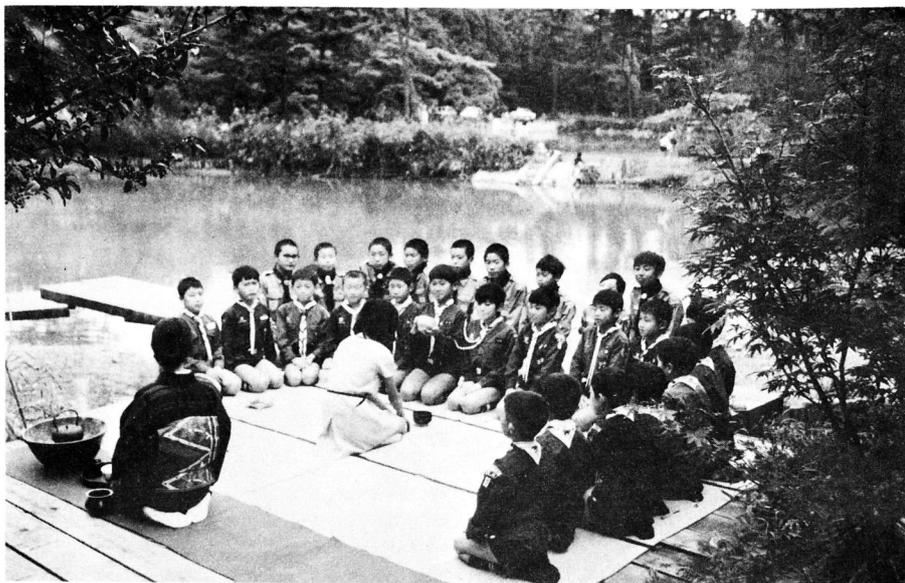


<p>やくそく</p> <p>ぼくは まじめにしっかりやります</p> <p>カブ隊のさだめをまもりま</p> <p>標語</p> <p>いつも元気</p>	 <p>スカウト 浜松</p>	<p>さだめ</p> <ol style="list-style-type: none"> カブスカウトは すなおであります カブスカウトは 自分のことは自分でします カブスカウトは たがいにたすけあいます カブスカウトは 幼いものをいたわります カブスカウトは 進んでよいことをします
--	--	--



組織の拡大について

静岡県連盟組織拡大主宰 井野包次

◎ ボーイスカウト日本連盟は、昭和47年11月に東京で天皇陛下の行幸を仰ぎ、創立50周年記念行事を行い、その一環として故石坂総裁の提案によって全国的に組織の拡大をはかり、スカウト人口を大幅に増加させることになりました。

◎ 組織の拡大目標

今後20年間に20万人を150万人に……という構想ですが、20年を4つに区切り5年間を一区切りとし、まず第一次を48年から52年とし、その間に30万人に拡大しようとする計画であります。

◎ 世界のスカウト人口 (110ヶ国 1,311万人)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. アメリカ (580万人) | 2. インドネシア (183万人) |
| 3. フィリピン (183万人) | 4. イギリス (63万人) |
| 5. タイ (53万人) | 6. インド (52万人) |
| 7. カナダ (27万人) | 8. イラン (23万人) |
| 9. 日本 (21万人) | 10. オーストラリア (17万人) |

◎ 第1次5ヶ年計画の重点目標

- 現在の組織を一段と強化する。特に団委員会の強化をはかること。
 - 組織が成長し伸びるためには現在の組織が強固でなければならない。
 - BS運動は大人と子供が共にメンバーの団体であり、スカウトに関する点では不十分であるが一応出来上っているのに、大人の組織である、団委員会や育成会の運営に関することになるとまことに不十分であると言わねばな

りません。

- 隊長がスカウトを指導する面と、これを助ける団委員会の活動とが、車の両輪のように同じ大きさの輪でなければ、正常な活動は不可能であります。
(スカウティング誌・50年2月より団委員ハンドブックが連載されました)

②指導者養成機構の増強

- 組織拡大をはかる上に指導者確保は絶対条件であり、この困難を克服しない限り組織拡大は望まれません。そのためには指導者講習会開催数の大幅に増加しなければならない。静岡県連でも昭和49年にはCS-210人、BS-136人、昭和50年にはCS-208人、BS-198人、この2年間に762人が受講しましたが、大部分が指導者の交代要員であって実質的歩どまりは良好ではない……これではいつまでたっても指導者不足は解消できません。

◎ BS静岡県連の昭和50年度拡大の動き

- 13WJの年、即昭和46年に18,092人であったスカウト人口が、昭和49年には16,763人に減少した。県連でも組織拡大特別委員会で種々検討し、昭和50年度具体目標を昭和49年度数の10%増 (18,430) としたが結果的には17,391 (0.3%) 人となり、各地区各団の御協力にもかかわらず所期の目的を達することは出来ませんでした。

- ◎ 第1次5ヶ年計画も、昭和51、昭和52年と更に2ヶ年ありますので皆さんと共に努力いたしたいと思っております。

◆◆◆◆◆ 浜松地区組織拡大の現況 ◆◆◆◆◆

浜松地区組織拡張委員長 山中将司

日本連盟の組織拡大計画によると、今後20年間に全国で現在の20万人を150万人に増し、その第1次5カ年計画を昭和48年より52年とし、30万人に増やすことです。

県連盟でもこれに比べ49年度の10%増を50年度の拡大目標とし、県内各地区へ要望をしました。

浜松地区の拡大状況を見ると昭和49年度末登録人員2,032名の10%の203名を増すことに、この1年間地区全員の方々にご協力いただいた結果、目標を100%達成し2,235名になりました。あらためて厚くお礼申し上げます。

この中には新団の浜松22団、23団、24団が生れた事が大きな

力になっております。しかしながら、浜松地区のスカウト数を人口比で見た場合、特に浜松市内に於ては県平均より低く、もっとスカウト数の拡大を図らなければならないのが現状です。浜松市内にはまだまだスカウトに入っていない小学校3年生より中学3年生までの生徒が大体14,500名位あります。

51年度においても200名位の拡大をしなければなりません。その為には人口の多くなっている市の外郭部の校区に新しい団を次から次へと作ることが浜松地区の組織拡大にとって重要なことでもあります。1人でも多くの少年をこのスカウト活動の仲間に入れるよう皆さんと共に頑張ろうではありませんか。

組織拡大の語録

1. 我々は、リーダーである前に人間である。
 2. 我々リーダーは、学歴も経験もマチマチである。その上無報酬である、ということを知っている。
 3. ボーイスカウトをやっている人に、悪い人はいない。
 4. ボランティア・リーダーこそ、現代の聖職者である。
 5. 県内のどこへでも、一人で、スカウトユニフォームで行ける日を。
 6. 個人の幸福に結びつかない運動は、伸びない。
 7. 趣味的のBS運動から、社会的責務に根ざしたBS運動へ。
 8. 地域差がある。個人差がある。あれは駄目だ。これは駄目だと言うな。
 9. 派閥は最大の敵だ。
 10. ホンネとタテマエを連発する組織は、やがて崩壊する。
 11. 人をけなしたり、馬鹿にしたりするな。
 12. 「仕事が忙しくて」という言葉は禁句である。
 13. 友好団体を非難するな。傷つけるな。接触せよ。
 14. 新団の開発について、自分の大ボラは吹くな。
 15. 新団の開発では、大きな話は禁物だ。
 16. 新団の開発では、大金を集めた話は禁物だ。
 28. 良識ある社会人とは、世間で鼻つまみされない人間である。
 18. 溺れるものを、見殺しにするような組織は、やがて自らが溺れる。
 19. ボランティア活動は、時間を上手に使うことだ。
 20. 常にスカウトの誇りをもて。
 21. ボーイスカウトとは何だろう？それは私自身なのです。理屈よりも、行動しよう君達！
 22. すべての目標を、組織拡大のために。
- (組織)
23. いつも挨拶に、組織拡大を語る。
 24. この人と思ったら、アタックをしよう。
 25. 組織の拡大も拡張も、実態調査から。
 26. 金のかからない、ボーイスカウトを。
 27. 四畳半に住んでる子供も、入れるボーイスカウトを。
 28. 小児ぜんそくをなおしたい親心が団を産んだ。
 29. 組織拡大は、地区、団の役員の決意から。
 30. 学校教育の基礎の上に、スカウト運動がある。学校の校長も仲間に入れる努力を。
 31. 新生のいないところに、組織の拡大はない。
 32. 新団を育てて、親団は美しい。
- (地区)
33. 地区が新団の邪魔になるのか、人が地区の邪魔をしているのか。
 34. 地区とは、組織拡大の何なんだ。
 35. 役は引き受けるが出席はしない。断りもせず、出席もせずこうした地区は発展しない。
 36. 分封に当っては、他の団を非難するな。傷つけるな。
- (行政)
37. 行政機関とは疎遠にしてはいけない、寄り掛ってもいけない。
 38. 行政には、青少年団体を育成する義務がある。逃げたり、ケナシたりしては、組織の発展はない。
 39. 行政には、すべからず、情報を提供せよ。
 40. 行政と、シッカリ、手のにぎれる所は必ず発展する。
 41. 行政に預け放しでは、進展はない。
- (指導者)
42. リーダーの養成なくして、組織の拡大はない。

43. リーダーは、スカウトに、生き方を教えるのだ。
44. リーダーは、技術に走らず、スカウトを愛することだ。
45. リーダーにとって、一番必要な資質は、責任感である。
46. 隊長は、スカウトの一人一人を大事にすることだ。
47. リーダーの獲得は、おどかしでは駄目だ。
48. リーダーは、社会の変化に敏感であれ。
49. 君も、我も、ボランティア・リーダー、されば常に仲よき。
50. リーダーの狭い根性が、発展を阻害する。
51. リーダーは、何よりも機会に出席することである。
52. 指導は下手であっても、休まずに出席するリーダーが欲しい。
53. リーダーは、父母のみに頼るな。外からも入れる努力を。
54. スカウトがあつてはじめて、リーダーがある。
55. リーダーは、スカウト達の鏡である。
56. リーダーは誰でもなれる。しかし、誰でも出来ない。
57. スカウティングが楽しくてたまらないリーダーに。
58. リーダーは「ご苦労さん」が合言葉。
59. 組織の盛衰は、リーダーの力できまる。
60. 隊長だけを可愛いがるな。
61. リーダーのひとりよがりな敵である。
62. 山や海辺でのキャンプで、隊長の少年時代を語る時、少年達は大きな心の糧を得るであろう。

(訓練)

63. 500円の会費を、1,000円にしてお返しするような、スカウト訓練を。
64. 馬鹿でもチョンでも、遅ければ出来る。
65. 隊費を余らせないような教育を。
66. リーダーは、教え過ぎないように。
67. 「聖人といえども、その子を教えるに、これを変えて行なう」等、リーダー同志、所を変えて、指導し合ったら如何。
68. リーダーは、子供心で話しかけ。
69. 「うちの子に、重い物を持たせてやってくれ」と母の願い。
70. スカウティングは、立派な社会人をつくる為の教育法。

(PR)

71. PRの最大は、充実したスカウティングである。
72. PRの最大の効果は、動くことである。
73. 公式の場、の奉仕活動には力がある。
74. 市町村、自治会、R・C、L・C、青年会議所、等それぞれの広報を利用してPR。
75. 行事やお祭りは、PRの最大のチャンス。
76. 「リーフ」や「パンフレット」は、パレードで配るよりも、パレードで飛びついて来た子に手渡してやれ。
ピラ→パレード→スカウト映画会→説明会
77. BSは、特異な団体ではない。PRを实践で示せ。
78. スカウト・デモは、PRの最大の武器。
79. 黙々としての、奉仕の姿に感動し……。
80. 「ここに、ボーイスカウトの団がある、ここに、ボーイスカウトの関係者が住んでいる」ことを知らせることだ。
81. 立派なスカウトをつくるのが、最大のPR。
82. よきPRは、BSだけの狭い視野から抜け出すことだ。

(まとめ)

83. 組織で広報の出ない所は、見えない、言えない、聞えない。
84. 会合が頻繁に開かれるところに脱落はない。
85. 団をつぶすくらいなら、始めからつくるな。
86. 団をつぶす事は、スカウト親子を路頭に迷わせる事である。

○ 浜松第23団 結成式 ○

浜松第23団 団委員長 高部良平

2月29日には、県連役員や友隊各位の盛大なご参加をえて志都呂町に、浜松第23団（平松信也隊長）が誕生致しました。生憎の雨天にもかかわらず、磐田、引佐、浜北等の各地から、陸続と馳せ参じられました皆様に、BSならではの感を深く致しました。

志都呂町の子供は、従来、竹村団委員長の卒いる浜松第20団（入野）に所属しており、その熱心な活動ぶりは目を瞠る念い、当団発足の原動力となったといっても過言ではないでしょう。また、地域のわくを越えて、永い間、直接隊員（母胎となる）の養成にご尽力下さいました浜名第8団（雄踏）のご好意、両団には紙上をかりて衷心より御礼申し上げますと共に、今後のご厚誼を願って止みません。

志都呂の地名は、その名の示す通り、この地を都（国の中心）にしたと只管わがう人達が集まったからだと言われています。そして産土神の八幡神社は、社格でも稀な摂社の称号をもち、結成式が行われた幼稚園は、新居の閑所を預っていた旗本・五井弘之助（松平姓）の邸跡で御陣屋と呼ばれています。いま首都の機能がマヒしつつあるので、首都の移転先が論議されており、その一つに浜名湖周辺が挙げられているのも、志都呂の地名よりして先賢の明をみる思いが致します。

それあるかな、志都呂にも団地ができ、全国から寄り集った人達も、既に十年一昔、地域住民と頓に同化しつつあり、随所に新風を吹込みながら、新旧一体となって郷土の発展に努力し



浜松第23団 結成式 祝声交換

ております。BSの結成もこうした運動の一環であり、地域ぐるみの応援は期して俟つべきものがあろうと信じています。

私もPTA会長、こども会育成会々長、社教委、自治会長として県連役員なども歴任して参りましたが、BSは全くの新人、先輩各位のご指導を切にお願い致します。

○ 浜松第24団 結成式 ○

浜松第24団 団委員長 間片 浩



この曳馬野の一角にスカウトの火がともされたのは、昨年の11月14日のことです。それ以後、本日に至るまでのちょうど4ヶ月の月日、その経過を要点のみにしぼり報告します。

初回の発起人会は11月14日で12月31日までの間に、十数回開催いたしました。その主たる目的は、当地区内の関係各位に対

故・松方三郎総長の「手紙の遠足」より 新総長からスカウトのみなさんへ

ひとつのお世話になりませぬ
ひとつのお世話をいたしましょう
そして報いを求めません

これは後藤初代総長の言葉だそうです。

久留島さんは、いつか、この後藤さんの言葉を引いて「つまりボーイスカウトの精神は、せんじつめれば、これなんだよ」と、ぼくにおしえられました。

ぼくはそれから後も、何度もそのことを思い出し、この後藤さんの言葉を思い返しています。

し、スカウト運動についての理解をいただくことでありました。

年が明けて51年1月7日、この曳馬小学校の講堂において、ボーイスカウトに関心を持つ人々を対象に説明会を開催しました。厳しき寒さの中ではありませんでしたが、約50名の子供と一諸に保護者の方々が熱心に説明に聞き入りました。その間2時間40分の長きに至りました。

その一週間後の1月14日、当地区内の助信公民館において、入隊者40数名とその保護者に対して細部に及ぶ説明会を開催しました。この時点、すなわち1月14日を期して、発起人会を発展的に解散させ、設立準備委員会を設置し結成式までの段取りと団の組織及び人的構成の確立につとめました。この委員会の開催は20数回を数えています。スカウトの訓育並びに訓練は1月21日より開始しました。

ボーイ隊、カブ隊、ともに6回の特別隊集会を百パーセントの出席率で行いました。そして3月13日「誓いの式」を曳馬小学校の北八坂神社の森にて、厳しゅうなふんい気の中でとり行ないました。ボーイ隊23名、カブ隊36名、計59名の者がスカウトの仲間入りをしました。本日3月14がその日です。どうぞ皆さんよろしくお願い致します。

ひとつのお世話になりませぬ。一人の人間として人の世話になって生きていくことは、なんとも残念なことです。願わくは、独立独歩していきたいものです。これは、男としてだれでも考えることでしょう。

だが、考えてみれば、人間だれ一人としてたった一人で生きているわけではありません。自分では一本立ちだと思っているも、じつは一本立ちどころか、いろいろな人の厄介（ひんがひ）になっているのです。そこで「ひとつのお世話をいたしましょう」ということにもなるのです。お世話はとにかく、いろいろな人の厄介になっているのだということがよくわかっていないと、このお世話をするほんとうの心持は出てきません。その心持がこもっていれば、報いを求めないのはあたりまえのことになるわけです。

(1971年7月)

○ B—P 祭 におくる ○

浜松地区コミッショナー 三輪 悦爾

世の中に不幸になりたいと思う人は恐らくないであろう。誰でも、幸福になりたいと思っているに違いない。けれども幸福とは何か？幸福になるにはどうすればよいのか？と云う命題については余り考えてもみない。

お金があったら。 うまいものがたべられたら。
邸宅があったら。 きれいな着物が着られたら。
自動車を持てたら。 人に勝って思う存分ことが出来たら。
その為に、立身出世したら幸福になれる。などと考える事は何か云わんやである。

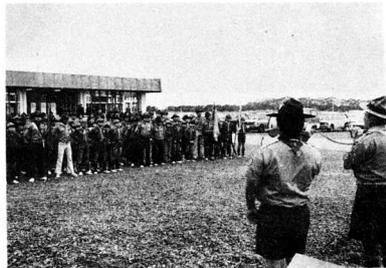
スカウティングとは、幸福への道であろう。
スカウトとは、真理に生き、真理を行なう人と云うことになる。とベーデン・パウエル、チーフスカウトは教えているのである。 今日一日、元気に楽しく過ぎて下さい。

1941年(昭和16年)1月8日、ベーデン・パウエルが亡くなられた直後に文書の中から発見されたチーフ・スカウトのメッセージをお送りしよう。

『私は最も幸福な一生を送った。それで君達みんなにも幸福な人生を送って欲しいと私は望む。私は、神が幸福に、そして楽しい生涯をもたらす、この愉快な世界を、私共にお作り下さったと信ずる。』

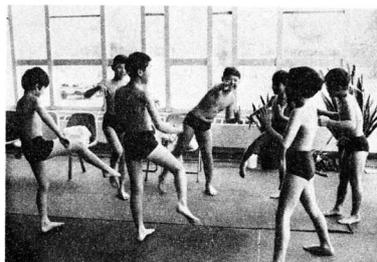
幸福というものは、お金持ちであるから来るものではなく、単に立身出世して成功することから来るものでもなく、自分の思い通りになることから来るものでもない。

幸福に至る一步は、君達が少年時代に身心ともに健康になることである。そうならば、大人になったとき生活を楽しむことが出来る』



ベーデンパウエルのお話し

中央ブロックB—P祭



寒中水泳でスキンシップ

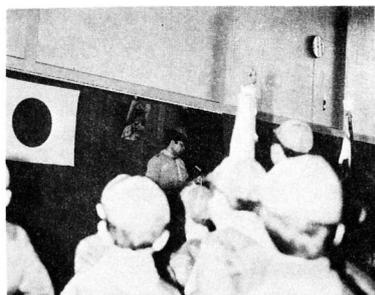
2月22日のB—P祭の記録を追ってみよう。計画一昭和51年2月22日(日)、浜松市江之島町浜松市屋内温水プール、10時集合、水着持参の事。評価反省一全体として好評であったし、冬の最中にプールという企画はおもしろくもあったが、プールのブロック行事は別途計画ではどうか。さらに考えて見ると、原点にかえって、B—P祭とは、いったい何だという事を各リーダー、スカウトが考えて見る必要があるのではないか。実施をふり返って見ると……。

朝10時少し前、雨がパラつく中を各隊が、プール前広場に集合する。バスでくる者、リーダーの車で分乗する者、息を切って、自転車でかけつける者、昨日から、中田島でキャンプをしていたシニアスカウト。いろんな形で集合してくる。

国旗掲揚、各あいさつ、地区コミよりのメッセージ伝達、第一部終了。つづいてプールへ突撃。室内に入ると、上着をぬぎたくなるような温度で、私も久しぶりに水にとびこんで泳ぎます。

今回の企画であった、ネックチーフのない裸のつきあい、ブロック内のリーダーとスカウトのスキンシップがかなりまで、できたのではないと思う。少々残念だったのは、泳げないリーダーもしくは泳がなかったリーダーが少々目立った事である。この次は是非御一緒をお願いしたい。

はてさて、来年度のB—P祭はいかなる事やら、楽しみである。



ベーデンパウエルは……

2月22日、肌寒い日であったが、我らが総長ロード・ベーデン・パウエル生誕を記念して西部ブロックは城北小学校体育館においてスカウト及びリーダー、父兄約300有余名が参加して盛大に式典が挙行された。

10時開会、国旗儀礼に始まり、鈴木ブロック長のあいさつに続いて内田地区委員長のメッセージの朗読の後、宮沢副委員長からB—Pについての伝記のお話しをお願いした。スカウト、父兄もなかなかB—Pについての話など、耳にしない事もあり大変喜ばれた。

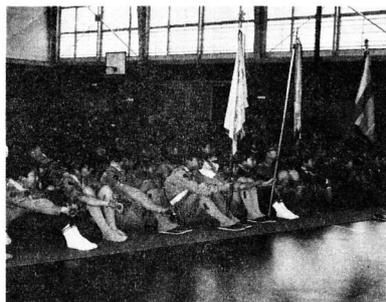
この集りに3月発団予定の浜松第24団のスカウト、リーダーが参加され、一段と華をそえた。式典後はカブスカウト、ボーイスカウトに別れ、それぞれ行事が展開された。

西部ブロックB—P祭

カブスカウトは体育館でB—Pの肖像画とゲーム大会。ボーイスカウトはコンパスと地図を使つての宝探しハイクに出発、日頃の訓練ぶりを発揮した。

カブスカウトはゲーム終了後B—P肖像画の優秀者・浜松第4団・渡辺君外9名に記念品がわたされた。

12時すぎ八幡神社の力餅とブロックで用意した甘酒をもらい散々ご帰途についた。



会場風景

南部ブロックB-P祭

2月22日、南部ブロックB-P祭は、浜松南小学校に於て華々しく行なわれた。

B-P祭、地区大会にかかせない力餅を浜松八幡宮から戴いて各ブロックに渡すのも何時の日か私の役割、之を済ませて会場へ。サテ会場では電機コードだ、薪だ、と準備が大変。開会式の式典の終る頃、二部の会場はお客さんを待つばかり。校庭に繰り広げられた各団の行事も趣向を盛り上げ、10団のコージ(紙)鉄砲、浜松動物園にはいないような見事な動物の射的、命巾着は?、○では困るので、力餅の特賞付き。18団の竹笛、なかなか思う様に出来ない。ウグイスならぬカラスかブタか、免に角鳴ければサイン、鳴かざれば鳴くまで作れと隊長の声、指先切ってリーダーも大変、リバテープまで用意して懸命の笛作り。可美1団の竹トンボ製作、コノ為に製作した工具の前に押



竹馬競争

すな押すなの子供達。飛ばない竹トンボ作り、竹の肉が正月飾りの再生とあって厚過ぎたのも飛ばない原因の一つらしい。16団の風車、寒い所にベニヤの板を置き、大豆がふやけて、さしても、さしてもま、ならぬ。完成は一番多い様に見られました。風車を持って走っていたのは小生だけでなく大分賑やかに走りまわって居た様だ。

20団の竹馬部隊指揮するは塩谷隊長、歩ける奴、転ぶカブ、鼻高々の団委員、最後に各団対抗競技と云う事だったらしいがそこは其の甘い香りや味噌のにはほい。食うものには勝てないらしく、担当16団のお好み売店石津隊長指揮のもと、揃いも揃った美人のサービスでオデンに甘酒、タマゴにうどん、うどんのうまいこと、それに引き換えタマゴの売れ行きサッパリで値下げしてチョン。三本総理に値下げのイキサツも教えてやって下さいよ、ママさんグループ頼みます。売店の大繁昌が思い思いの行事をかつさらった格好。

竹馬も良かった。竹トンボも面白かった。カブ好みの風車も良く廻った。やかましく竹笛も鳴る。カブトをぬいで売店に集る。先ずは日出度しの日でありました。



うまいうどんの売店

浜北ブロックB-P祭

ボーイスカウト浜松地区浜北ブロックB-P祭は、カブ114名、ボーイ(シニア)35名、リーダー、父兄48名、計197名が参加して、2月22日、早春の日曜日、緑につ、まれた於呂神社境内で挙行された。

第1部、午前10時より式典、開会のことば、国旗掲揚、連盟歌斉唱、主催者のあいさつがあつて、次いで来賓の祝辞をいただいた。

『B-P祭におくる』BS浜松地区三輪コミッションのメッセージを浜北第3団の野中カブ隊長が代読した。つづいて、外山浜松地区副コミの講話です。「B-Pのはなし、世界の総長について」と題して、カブスカウトや、はじめて参加した父兄にも解りやすく、しかも大変、有意義なお話してありました。

第2部は、いよいよ楽しいゲームです。



綱引き
ヨイシヨノヨイシヨノ

- 七色のゴム風船200個を使つての風船わり
- ルマンつな引きレース
- おしり合い
- トリオでカラコン

等ですが、いずれも各団のリーダーたちが、知恵と日頃の体験をもち寄つてのゲームは、あの広い神社の境内をところ狭しと笑いの中に元気いっばいに、カブ、ボーイ、父兄がいりまじつてのひとときを過ごした。

こうして、われわれのボーイスカウトの父、世界の総長であるベーデン・ポウエルの誕生を記念しての浜北ブロックの行事は多くの思い出をつくつたことであらう。

第3部は、閉会式。

各隊長より参加賞をいただいて、あちこちでは、すでにお母さんのつくってくれた、おいしいお弁当をたべている様子は実にほほえましい姿でした。B-Pを愚んでの浜北ブロックのボーイスカウトと共に一日の集いが無事に終了した。



国旗掲揚

《県連ニュース》

・アメリカヒルモント野営場派遣計画について

S・Sアドベンチャーキャンプに参加した、スカウトの中より県連盟が単独海外派遣を計画実施することは、すでにご承知の通りですが、今後も同じ様な計画がもたれますので、8月に第5回県S・Sアドベンチャーキャンプ、来年の第6回アドベンチャーキャンプなどに多数参加し、ヒルモント派遣のみならず総ての海外派遣への資格を有することをお勧めします。

・記念品販売について

来る5月16日、県大会を記念して、県需品開発特別委員会が計画して、スカウト需品(Tシャツ、ナスカン、リングなど)を販

売する事となりました。値段を極力安く、皆さんに喜んでもらえる様、同委員会は努力しています。沢山ご利用下さい。

・県大会について

昭和51年度県大会は、1カ所で実施されることとなり、5月16日(日)朝霧高原の第13回世界ジャンボリー会場、アリーナ付近で実施されます。第1部式典、第2部スカウト行事、第3部閉会式で、第2部のスカウト行事はオリエンテーリングや、富士のまき狩、登山など盛沢山の計画があり、朝霧高原いっばいにスカウト達の歓声がとどろくこと、思います。

又、雨天の場合は、富士宮市にある富士写真フィルム会社の体育館を借りて式典のみを実施しますが、各団10名ぐらいの代表を出席させて下さい。

中央ブロック団委員紹介

浜松第1団

吉沢 正道氏 団委員長 常に温厚な人柄にて歴史と伝統ある此の団をまとめられている。御尊父も地区協議会長。成子町法林寺の若住職、又第一幼稚園の園長である事はBS関係者ならば知らない人はないであろう。

斉木 誠二氏 副団委員長 現地区指導者養成委員長 他人の悪口の云えない誠実な人柄。又県連50周年の派遣団には団委員長と共に渡米。その際、会得されて来た経験、知識を活用、積極的な活動をされている。トウソウ組織勤務。

岡本 一郎氏 副団委員長 若い頃は満州迄渡られたという世間を良く知って居られる苦勞人。又だらしのない事のきらいな人。団では大久保彦佐の存在で良く委員長を補佐されて居る。学校衣料の製造販売自営。

河合ひろ子さん 財政委員 家庭で同様、団の財政を見事にやりくっている奥さん。各隊長から見れば山内一豊の妻的存在とか。

森下 嘉平氏 野営行事委員 非常に積極的な当団の野営行事にはなくてはならない存在の人。何時もその献身的な活躍には頭が下がる次第である。高嶺製作所勤務。

本田 宏枝さん 野営行事委員 紅一点の野営行事の委員と



前列左より
齊藤 岡本、吉沢、斉木、森下
後列左より
宮崎 尾島、本多、河合

して計画の中に細かい配慮が加えられて居る。趣味の料理、菓子作りの経験も野営食事の計画に大いに活かされて居る。

宮崎 守立氏 進歩委員 新人ではあるが、純情な人柄で、草野球で常にプレイすると云う若さで活躍が期待される。鈴木自動車勤務。

齊藤 利夫氏 健康安全委員 酒豪揃いの団委員の中でもA級の存在。明るいらい落な人柄で団のまとめ役としての活躍が期待される。鈴木食品勤務。

尾島 修一氏 組織拡張委員 新人ではあるがかつてアメリカ在住の経験もあり、広い視野にたつて真面目な人柄による新風導入が期待される。河合楽器勤務。

浜松第6団

金子 健三氏 財政委員 当6団が発足すると共に常にBS活動に協力的で、今もって金銭面で私達の為がなげばっている。

木下 博達氏 組織拡張委員 前年度(50年)より団委員の仲間に入ったバリバリである。団委員会の出席率も常にトップクラスのホープである。

平田美智三氏 野営行事委員 去年に引続き野営行事委員を担当している。今年も班訓練の奉仕はもちろんのこと、団委員の仕事は進んで出ているガンバリ屋。

山田 昌彦氏 団委員長 前年度までボーイ隊の隊長を勤め今年から団委員長となる。

副団委員長 鈴木 和光 伊藤 春雄
指導者養成 竹内 明 富田 武夫



山平木
内田下
金子

進歩委員 服部 讓司 市川 荇一
野営行事 渡辺 和年 和久田 広一
健康安全 木下 瞭 内山 繁

浜松第14団

長尾 静夫氏 育成会々長 副団委員長 健康安全委責任者 我が14団にこの人あり、発団以来現在に至るまで、名実共に団を背負っておられる。浜松地区健康安全委員長さんでもある。諸団体のお世話もされ乍らの忙しい方であるが、会合、舎・野営にも欠かさず出席される。そして医学、天文、植物等の指導にも労を惜しまれない敬虔なカトリック信者さん。油絵でも高名な小児科の名医・長尾先生である。(広沢町)

奥沢 達司氏 団委員長 信州飯田の在、恵那山トンネルの恵那山麓出身、教会のメンバーであるため、発団当時4年程団委員に名を連らね、中休み後、50年度から団委員長に選任されている。「リーダーとの接触に重点を置いて行きたい」との事である。(佐藤町)

大島 雅夫氏 副団委員長 スカウト精神を植えつけるのはカブスカウト年代からと言う信条から、団の期待を担って選任された。不言実行の行動派の人である。奥さんもデンマザーで活躍中のスカウト家庭の一例である。(志都呂町)

齊藤 之司氏 野営行事担当 3人の子宝は、全員スカウト在籍中。特殊印刷会社の社長さん。PTA、業界と顔を出すところで重宝がら責任者となる実践の人である。奥さんはデンマザーとして活躍のやはりスカウト一家である。(天王町)

高杉 忠雄氏 指導者養成担当 昨年より指導者養成担当として、指導者の養成に尽力されている。今は豊橋のお役所通いと、遠いところ、その勤務のかたわら、本年も指導者の養成で団盛り上げの基盤を強化したい、との事である。(小池町)

高田 定氏 組織拡張担当 ひらめき、割り切り方の早い豪人である。団の会合でも率直な意見を述べ、団運営に奇とされている。会社役員で忙しい方ではあるが、今年も団組織拡張の為、リーダーシップをとって頂く。(市野町)

本多 健三氏 財政担当 スカウト活動に最も理解ある人の一人。会合出席は勿論、各活動には積極的に参加、奉仕に骨身を惜しまない人である。得意の8%でスカウト活動を記録され、団の反省会、説明会等必要に応じて映写技士に変身願っている。卸本町の問屋さんの専務さんである。(鴨江町)

川島 順三氏 進歩担当 会社経営。PTA役員。ライオンズメンバー。教会委員と各方面に広く活躍されている。リーダーの汗の結晶であるスカウトの進歩、神へ至る道を歩いて貰いたい、と願っておられる。今年にはカトリックボーイスカウト・ジャンボリーの年、現地で是非キリスト教章を、とリーダーの発案に精力的に協力しておられる。



前列左より
齊藤、高田、奥沢、長尾
後列左より
リーダー、高杉、大島、本多

浜松第15団

林 良太郎氏 育成会長 本団の結成発起人である。青少年教育には非常に熱心な方で、自宅の松江会館を始め広場もスカウトの為に開放している。浜松卸商団地理事長の要職にある。

長沢三五郎氏 結成時の団委員長をつとめ現在は育成会副会長。スカウト運動に理解あり、電話ポケットベル会社の役員。初孫が生まれ嬉しいおじいちゃんである。

山中 将司氏 団委員長。地区組織拡張委員長。「スカウト浜松」編集発行でも忙しいのである。

川瀬愛治郎氏 副団委員長。団内全ての事に精進し円満な人からはスカウト、リーダー、育成会員より強く信頼されている。団の財政、野営行事等すべてをうまく切り廻し、団にとってはかけがえのない方である。地区野営行事副委員長をもつとめている。お仕事は綿糸を扱う(株)カワセの社長さんでバリバリとやっている。

袴田 栄治氏 組織拡張委員をも兼ねている副団委員長。日綿浜松支店より東京へ転勤になったが毎週金曜日夜には必ず浜松へ帰り土、日の行事には出席しスカウトのお世話をしてくださる。

豊田 時雄氏 カブ担当の野営行事委員。カブ隊行事の計画、下見、本番と財政、食料、人員輸送等すべての面倒をみてくれる。隊長・デンマザーの感謝の的である。八幡町で機料商を営み、お仕事も益々発展である。

平山 木一氏 平山外科医院の先生。スカウトの健康、衛生には特に関心をもたれ、スライドを使用して衛生のお話し等をされ、ご尽力下さっている。健康安全委員として益々活躍をお願いします。

山下 虎男氏 11年間カブ隊リーダーとして活躍し、県連有功章を授与された。このたび団委員として引続きご指導を頂くことになりました。

長沢 雅則氏 庄田鉄工K K勤務の模範社員。昨年長男出産、嬉しさのあまり団委員として研さん。若手のホープである。



井上、石山、柳井、松井、近藤、川田、内山、村松、豊田
左→ 山下、川瀬、山中、鈴木(英)、小林

柳井 烈氏 新任の団委員。ご夫妻お揃いでスポーツマン。ほがらか健康そのもの。進歩委員。長男がボーイ隊へ上進。

近藤友太郎氏 土木機械の三栄工機(株)の専務さん。長男がカブ隊在籍中はお母さんがとても熱心で出席抜群。今年ボーイ隊へ上進したのを機にお父さんに野営行事委員をお願いしました。大いに頑張ってください。

近藤 照司氏 鉄骨建設業を経営。

山田 定男氏 鉄工業経営。

ともに野営行事委員として大いに活躍。お、らかなお気持ちの方々にどんな事でもお引受け頂き、常にボーイ隊活動の原動力的存在である。

川田 松夫氏 鈴与石油部ご勤務。

鈴木 英伸氏 木戸町にて木工業を営む。

小林 一夫氏 佐藤町にて木工、プラスチック業を営む。

以上お三方は野営行事委員を担当しながら、カブ講習会を受講予定、ゆくゆくはリーダーとしてご指導をお願いしたい方々。

村松 義夫氏 篠ヶ瀬町でスーパーを経営。商売柄早起きは有名、その為か若さと健康そのもの。野営行事委員を担当。以上わが団の団委員は多士才々である。(山中記)

浜松第21団

木村 清治氏 21団結成計画時から参画し、副団委員長。49年より故・牧野団委員長の後を受けて団委員長に就任。PTA関係では小学校、中学校、高校と長年、常に要職にあり、木工業経営する多忙の身ながら、昨年はBSリーダー講習会も受講し、21団の中心として活躍。団の重鎮であるが、体重は重くなく、まことにスマートなのです。天竜川町64 (団本部)

高橋 忠雄氏 木村団委員長、玉木BS隊長、竹山CS副長等と共に結成計画から参画、発団と共に副団委員長として右も左もわからない新しい団をリーダーと協力し、発展させた功労者。昨年はSSリーダー講習会受講。亀の甲より年の功という21団只1人の戦争体験者で頼りになる進歩委員。今年はお爺ちゃんになるかも知れないという。若さを誇る副団委員長。スズヨ製作所重役。天竜川町990

神谷 満雄氏 21団発団に現浜松北高生の子息と共に団委員として参加、以来野営・舎営等、行事にはリーダーと共に下見から事務手続迄受持って、東奔西走して団を支える功労者。野営行事委員。昨年BSリーダー講習会受講。49年からは副団委員長と重きをなしている。明光電機勤務。天竜川町850

石井九一郎氏 自から講習会荒し、と称しCS、BS、SSとリーダーの資格を持つ指導者養成委員。PTAの要職を持ち三幸商会経営と云う自分の仕事はする暇が無いじゃないかと思われる位の活躍ぶり。いまに奥様に追出されるかも?。何処に居てもわかる健康的な色艶の良い顔と、大きな声でリーダーを助けスカウト達、お母さん達に人気がある。和田町626

杉本 範正氏 子息のCS時代デンダットとして活躍。見るからに堅く、信頼出来る人柄を見込まれて、CSの会計を受持ち48年央より団委員となる。49年からは財政委員として、団の会計をまかされてCS、BSの活動に協力、活躍している。49年CS、50年BSリーダー講習会受講。浜松テレビ勤務。北島町547



鈴木、斉藤、石井、松本
左→ 高橋、木村、神谷

斉藤 節男氏 息子のCS時代デンダットとして協力して居る内に、いつの間にか団委員になって制服を着て居た。49年CSリーダー講習会受講。協力する気は十分あるのだが零細な織布業と云う忙しい仕事柄、もたもたして皆に迷惑をかけて居る組織拡張委員。安間町132

阿部 正昌氏 篠ヶ瀬町で阿部整形外科を開業されて居るお医者さん。常には余り出でただけいけないけれど野営・舎営には顔を出して皆に安心感を持たせてくれる健康安全委員。

新しいリーダー紹介

鈴木 教介氏 BS副長。21団も今年よりSSが隊として登録され、皆さんの仲間入ります。隊長は前年度迄BS副長の土井庸一氏です。BSリーダーが玉木隊長、柴本副長だけでは手薄になる為、昨年BSリーダー講習会を受講してもらった鈴木氏が昨年末より副長として登場願う事になった。子息がCSでデンダットとして2年活躍。今後はBS副長として活躍を約束。自然食品販売業。北島町704

山本 百代さん 子息のCS入りと共に3年間、家族の協力の元に主にデンマザーとして活躍。49年にはCSリーダー講習会受講。昨年末よりCS副長として登場。西郵便局勤務。篠ヶ瀬町599。以上2人・21団の期待株。

浜松第22団

大木 俊夫氏 育成会々長。静岡女子短大助教授。一家揃ってカトリック信者。北陸は福井の産。温暖な気候を愛でて当地に根を下ろした。瘦軀に似合わず天真爛漫。明るい人柄、多忙中を割いてボーイスカウトの為に努力され適任、適役、活躍中。

横山登喜彦氏 育成会副会長。KK織興専務。カトリック一家。鷺の宮教会愛徳会々長。ボーイの精神と同じ趣旨のもとに実践している実直型。適齢期の娘を持つとも思えぬロマンチスト壮年である。

横山 寅吉氏 団委員長。KK織興社長。10年前、成子第14団発団時の初代育成会長。10年後、宿願の第22団の発団に尽力。眼に入れても痛くない孫3才10カ月、この7月には2児のお爺ちゃんとなる筈。孫の入団が待ち遠しく楽しみにしている。

高島 春夫氏 財政委員長。笠井中学校教頭。大根を包丁で切ったような曲った事の嫌いな寡黙で筋の通った男らしい男。鷺の宮教会の財務を担任。バカ堅いことは有名。教育者としても素晴らしい人。信頼に値する現代に数少なくなった貴重な存在。一家を挙げて熱心なカトリック信者である。

斉藤 真一氏 組織拡張委員長。KK河合楽器製作所。楽器都市浜松の河合楽器に永年勤務され、市野町在住。隊の拡張に張切って協力、実践。自分のことは犠牲にされても、ボーイの奉仕精神を地で行く実行型。貴重な人材である。

鈴木 実氏 健康安全委員長。みのる整形外科。遠州病院に勤務された後、上島町に開業、3人の子のお父さん。名医の世評高く、それを裏づけるように、いつ伺っても患者は溢れるばかり。長男の太郎君はボーイ第12団員。当22団の健康安全はみのる先生が、どんとこい！とOKされ、名医に守られ、我が団は磐石である。

松本 昌二氏 指導者養成委員。平野硝子KK課長。鷺の宮教会及び第22団になくはならぬ存在。温厚な指導力を持った熱心なカトリック一家。二男が当22団員。張切って指導者養成



左から 木木、高島、松本、斉藤、横山



鈴木 実



大角 陸章



白浜 清太郎

に尽力している。氏の指導に依って、将来素晴らしい指導者が生れることを確信出来る。

大角 陸章氏 野営行事委員長。太田シートKK専務。発団と同時に多大な協力と、惜しめない奉仕を提供している。野営行事道具一式を寄附、団員一同感謝感激。団随一のハンサム。団活動で一番多いのが行事。行事でいつも苦労苦労するのがこの人。斯う云う人が居ないとボーイスカウトは発展出来ない。

白浜 清太郎氏 進歩委員長。白浜工業所。鉄工業を自営され第22団の発団には特別の関心を示された。御多忙な折には、内助の功で奥様が団委員会に出席され、いつもにこやかで委員会に明るい雰囲気を出されている。

4th オーストラリアン ベンチャー

第4回 オーストラリアシニアスカウト大会報告 於キャンベラ

浜松11団 シニア隊 斉藤 欽司

「第4回オーストラリアシニアスカウト大会」という海外派遣募集が9月の末に始まって以来、11月7日の派遣内定から出発までは実にあわただしい日々が続き、準備にはかなり苦労した記憶がありますが、それなりに実に意義ある大会であったと思います。ここでは、大会を中心に報告させていただきます。

日本派遣団25名が三鷹のスカウト会館へ集結したのは、12月19日、2日間をフルに活用し、荷物の重量制限に苦しみながらついに21日出発の朝を迎え、我々は、一路ホンコンへ向かったのです。後の団報告書のための、直後の作文も、機内でまず最初のを提出し、以後3日に一度ずつぐらいい書き続けました。ホンコンでは、ホンコン連盟を訪問し、観光等の後、赤道を越えて、めざすオーストラリアの地を踏んだのです。心配されたのは天候の急変と体のことでしたが、幸い、3~4日涼しい日が続く、快適なうちに、シドニーでの5日間のホームステイを終りました。このシドニーの滞在は、生涯忘れられないものになると思います。28日にキャンベラに移り29日キャンベラ郊外のコッターマウスキャンプ場にはいりました。さて、今大会を「シニアスカウト大会」と訳しましたが、正式には「4TH AUSTRALIAN VENTURE」と呼ばれ「ベンチャー」が示す通り「冒険の大会」と言うべきかもしれません。第4回目を迎えるこの大会は、オーストラリアのシニアスカウト（ベンチャーと呼ぶ）1500人ほどが参加し、女子も参加し、首都で開かれるはじめての大会でもありました。オーストラリアンベンチャーの目標はアクション（行動）でとされ、期間中は、各人のニードをフルに満たした数々の活動が用意されています。大会場コッターマウスは、固定キャンプですが、そこでは眠り

食事し、交換する場であった、すべての活動が、会場を離れた場所でおこなわれました。大会のプログラムは、2区分されており半分はキャンベラを中心としたコッターマウスを基地とするもので残り半分は事前に決定されている冒険旅行への挑戦となっています。大会場も、よい野営地ですが、上のような理由で、実に閑散としています。ジャンボリーなどより、むしろ地区野営程度を考えてくれた方が適当です。スカウトは顔なじみの者6名を単位にテントに割り当てられ、90名で1グループとなり、本部直結のヘッドクォーターによってまとめられます。各人には参加を示すネッカチーフと、ピザが渡され、織別されます。服装は、公式行事、会場を出るときには、正装が必要でその他のときはなんでもかまわないことになっています。喫煙



ドラムかんと木ワクでつくったいかだ



冒険旅行の昼さがり

は許されています。オーストラリアでは14歳になると、親の許しさえあれば法的に認められるのです。日本隊は、日本の法律に従いましたが……。食事は、食堂で食べます。オーストラリアでは食事をつくることよりも、その他の活動に時間をかけるのが普通ようです。“KEEP AUSTRALIA BEAUTIFUL”これは、大会の標語になっています。オーストラリアは、歴史的に若い国で、人口密度も低いので、まったく手のつけられていない自然ばかりです。国民は、この自然のすばらしさを誇りとしていますから、日本とは異った自然観をもって接しているのです。ハンドブックの注意書には、次のようなことも書かれていました。「不必要な穴を掘るな」「道のあるところだけを歩け」「石を動かしてはいけない」……。彼らは、たき火で炊事することはおろか、テントの側溝を掘ることもしないのです。

29日夜、開会式がありました。人数が少ないので、みんなできるくって中央のリーダーが、拡声器なしで、大声でしゃべるのです。サマータイム制なので、8時すぎてもまだ薄明るく、照明もなしです。しかし、日本隊が紹介されたときの喚声や、世界の副総長でもあるガンシーさんというオーストラリアチーフコミッショナーの話しかけとスカウトたちの熱叫には、それなりのあじがありました。考え方の違いにも驚かされます。8時にあるとこのことで定刻に行ったら、いるのは日本人だけ……始まったのは、8時45分ごろだったと思います。大陸的なのんびりとしたムードに慣れるには時間がかかったのも事実です。

ここで活動について説明します。コターピン章という、活動の認定証が与えられることになっています。つまり、前半のキャンペラでの活動に対して得点制があり、8点に達するとベルトにつけるコターピンバッジがもらえるのです。日本隊は全員が、これを獲得しました。

- 半日の活動……1点
- 1日の活動……2点
- 会場内の奉仕……3点

という具合です。また、指導者は、これを受けることはできません。期間中指導者は、ベッド付の宿舎を提供され、スカウトとは別のプログラムを行うのです。コターピン獲得のための日数は3日間しかありませんから、次のような活動をうまく計画し、早くブッキングすることでやっともらえる名誉の章でもあります。得点の対象となる活動には、

- (1)会場内での活動(1点、半日)
 - ミニエリアでのパーティ、軍隊訪問コース



ライフル射撃(32名中第4位の成績だった)

- 水泳(川がある)、牧師さんとの対話
- (2)会場外での活動(2点、1日)
 - ボーリング、スカッシュ(テニスに似た、壁を利用するもの)、ゴルフ、アーチェリー、宝さがし、キャンペラ見学
 - ロッククライミング、ヨット、カヌー、オリエンテーリング、バイクでぶっ飛ばす、飛行機操縦、グライダーにのる
 - 日帰りハイク、魚つり、エアマットで滝下り、ライフル射撃
- などがあり、これに、奉仕センターでのいろいろな作業が加わります。

このような多彩なプログラムで僕は、ライフル射撃、スカッシュ、キャンペラの自然公園訪問ができ、すばらしい体験を積むことができました。会場内での臨機応変な催しは、きわめて自治的で、新年を祝うパーティもすべてスカウトの力、ファイリングで行われ、それぞれが貴重な時間を持つことができたと、思います。日本隊は後半に冒険旅行を行ないました。これは、大会の最大のプログラムであり、日程も3泊4日のもので、規模も、日本では、考えられないくらい大きなものになっています。ちなみにバスを多く利用する大会ですが、活動場所へはバスで3〜4時間のところまで移動します。朝霧高原で行ったとすれば、名古屋あたりまで行って歩きはじめることになります。

- そのうちわけは、
 - 雪の森林探索(オーストラリア唯一のスノーウイマウンテンを歩く)
 - カヌー旅行
 - パンゴニア洞穴(3日間穴にはいり続ける)



コッターマウスキャンピング場(レジャーテントが使われた)

- サーフサファリ(海岸での活動)
- ウイージャスパー基地(洞穴、岩歩き、オリエンテーリング、水など総合)
- スキューバダイビング
- イカダ流し(10人のりのイカダで川下り)

といった具合で、多分に我々をひきつけるものばかりです。それぞれ異った体験をするわけですが、僕は、「いかだ」に参加しました。あまり川が大きいので、湖流で流れたり、こいだり雄大な原生林の岸の景色を楽しむことができ、自然に帰った気分を満喫してきました。日本隊は、数少ない外国派遣団の中でも人気が高かったのですが、5日の晩のニューサウスウェールズのスカウトとのラグビーの試合や、その夜のジャパナイトでの盛況ぶりが示す通り、実に暖かい心をもって交換できたように思えます。閉会式も、それほどかざりつけられたものではありませんでしたが、ひとりひとりが満足して、あのガンシーさんの話を聞いたのだと思います。

この後、2日間キャンペラに滞在したあと、9日に帰国し、別れた25人の仲間でしたが、それぞれに思っていたのは、シニアの全国大会ニボニーズベンチャーを持つことで、日本の中でも法や因習にこだわらない、シニアのニードを満たせる大会があってもよいということなのでした。自然と話をするオーストラリアの友だちのあの笑顔には、確かに日本人には持てない心の暖か味が感じられましたが、日本人の良さはそれぞれにまたすばらしいこともひしと感じることもありました。同じ若者の彼らにできて遠州のスカウトにできないことはないと思うのです。簡単な報告でしかありませんが、我々スカウトの可能性を見直されるひとつの機会となれば幸いです。

スカウトコーナー

隊のグリーンパー野営に参加して

浜松第1団ボーイ隊 鈴木利昭

昨年十二月三十一日、カモシカ班、バッフアロー班、フックス班、サラブレッド班の班長、次長、計五人は、寒い中田島砂丘へ出かけた。海岸でのテントはりは、なれていないためいつもとちがい、楽しいものだった。また、グリーンパー野営だし、正月でもあったので、持ち物の規制がだいぶゆるめられ、ラジオやテレビの持ちこみが許され、夜も、楽しいものだったゲームをしたり、夜食を食べたり、紅白歌合戦で、一夜を過ごし、除夜の鐘が鳴ると浜まで出て「イヤサカ」をやった。

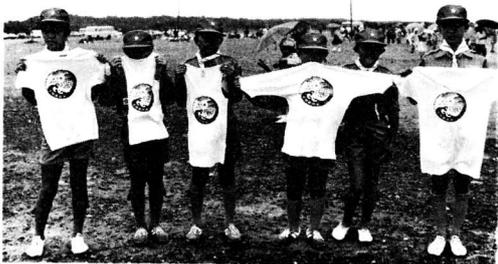
朝、地区の日の出よう拌である。ボーイスカウトが浜へどんどん集まってくる。ぼくたちも、寒い中、今まで着ていたGパンと、ジャンパーをぬぎ、ソックスとガーターをはき、身心ひきしまる思いで、浜へ向った。空を見上げると、まだ6時になっていないというのに、もう、東の方が明るくなっていた。コミッショナーなどの人たちの話のあと、朝日に向かって、「イヤサカ」をした。このとき、ぼくは、夜、浜へ向って行った「イヤサカ」のときのことを思い出して、新たなる心構えと、さわやかさを感じた。この一年、何事にも全力でぶつかってゆこうと。

今、想いかえしても、この、グリーンパー野営と日の出よう拌は、有意義だったと思う。

「土曜の夜の班集会」

浜松第6団 ボーイ隊 山本典和

三月六日、土曜日、午後七時半。きょうの班集会は、普段と違い、土曜日の夜にやる事にした。日曜日は用があって班集会をやれないからだ。少し寒いけど、まあしょうがない。ガマンして自転車で集合場所の隊ルームに着く。まだ、だれも来ていない。「みんな忘れちゃってるのかな。」と思いながら、手さぐりで隊ルームの戸をあけ、けい光燈をつける。風が窓に吹きつけているので、窓がガタガタとなっている。少々不気味さを感じる。と、その時、キーッという自転車のブレーキの音がし、隊ルームの戸があき、班員の声。「こんばんわ。」しばらくしてから、また一人、班員が来た。「よし、班集会をはじめよう。」今日やる事は、読図とシルバーコンパスの使い方なので、二人の班員に地図をわたし、持ち物のシルバーコンパス、色エンピツ、定規などを出させ、いろいろと説明してやる。三角点、水準点、独立標高点、十六方位、等高線、磁北線、などなど。



そして、今日やる予定だったものを全てやってしまうと、急に寒さがきつくなってきた。ちょうどそのとき、コーヒーの粉がぼくの目についた。「コーヒーでもつくって飲むか。」そうと決まれば仕事は速い。コップを三つ出し、やかんに水を入れ、石油コンロに火をつけ、コーヒーの粉、クレープ、砂糖を用意し、やかんに石油コンロの上に置く。湯は、ほんの十数分ですぐにわいた。コップの中に、コーヒーの粉と砂糖を入れ、湯を注ぎ、スプーンでそれをかきまぜ、クレープを入れて、できあがり。コーヒーのいい香りがプーンとする。コップを口に近づけ、コーヒーをすすると、寒さにふるえていた身体がシンからあたたまっていくような感じがした。コーヒーを飲みおわると片づけをして、班集会をおえた。家に着くころには、コーヒーであたたまったはずの身体も、もうすっかり、冷たくなってしまっていた。

キャンプ

浜松22団 ボーイ隊 齊藤明志

ぼくたち、ボーイスカウト浜松二十二団は、昭和五十年八月に初めてキャンプをした。初めてだったために、失敗もたくさんした。スパゲッティもゴムのようになり、おにぎりが、まるくなったりして。もうたいへんだった。みんな初めて経験することだったので、びっくりしたり、笑ったりしてみんな楽しそうだったテントが、うまく張れなかったりしている班もあったいろいろなことを憶えたり。ぼくたちの二泊三日は、一年のように長かった。隊長といっしょに勉強したりして。今まで経験したことのないものを経験して。ボーイスカウトの精しんも習って、ぼくたちにとっては、忘れることのできない二泊三日だった。

キャンプの思い出

浜松第1団ボーイ隊 天野秀敏

水窪キャンプが一番今年の中で印象が強かった。いじわるな中1スカウトが、ぼくらをいじめて自分達はよいテントに寝てぼくらは雨もりのするテントで寝た。雨が最大の敵だった。雨の中のハイキングで、トンネルのおくまで行ったり、ダムをのぼったりしてとても楽しかった。次の日に中1スカウトが川上さんにおこられた時は、胸がスカッとした。ぼくが中1になったらこんな事がないようにしたい。

班長訓練野営

浜松第6団 ボーイ隊 佐藤嘉高

ぼくは、あの時のことを今、いい思い出としてのこっている。ぼくは、その時、中学一年だった。先輩やその前に班長訓練野営に行った人におどろかされて和地山公園にいった、班を決めて班名も決まって野営地にいった。開所式をやり、次に何を作るかきめた。ぼくは、その時から運が悪く、便所を作ることにになった。でもそれはためになったと思う。いつもテントばかりはったりしていたのであまり作り方がよくわからなかったが一人スコップ一杯出すとしてかんじょうしてほった。むしろをまわりにはってできあがり。次になかまづくりというのでいろいろ話し合った。第2日目ぼくは、隊集会で巻きむすびがわからなくて、15団の隊長におこられて、ぼくらの隊長の所へいってきえた。ほんとは、しっていたのだ。失敗はそれだけではなかった、営火の時、たき火用につかっていたかまどから火が出たのだ。(ほんの少し) 次の日ハイキングのコースをまちがえたりして、結構ついたのはびり、そしてその夜、非常しようしゅうで整列していたが一人寝ている人もいた、そしてその朝山を回ってトレーニングそして帰りのハイキングの時のコースのつじ園もぬかしてしまっただが、その時あきかんをダンボール二箱もひろっておいだったのでよかった。このようにミスも多かったが楽しい班長訓練野営だった。

ボーイスカウトをふり返って

浜松6団 ボーイ隊 野牛班 班長 太田 勲

ぼくは、三年間ボーイスカウト活動に参加している。この三年間いろいろなことがあった。キャンプ、ハイク……。

まず1番印象にのこったことは、なんといってもキャンプのことである。夜がなんともいえないのである。夜は、心を感動させる。火は、心を燃やし、また、思い出をのこす。歌そして劇。楽しいプログラムをくんだキャンプは、とてもおもしろいのだが、苦しいこともあった。苦しいことがなかったら、思い出にのこるキャンプにはならない。班長訓練野営がその例だ。

ぼくは、班長になってから責任感がついたと思う。集会は、おろそかだったがほとんどぼくは参加している。班の最高責任者つまり班長。班長に任命されてから、苦しいことがあった。集会で班員が集まらなくて班長がいやになってしまうことがあった。が、そこで根をおろしてしまうとスカウトとして恥である。あとわずかな班長だが、あと半年の間しっかり班員を引っばっていきたいと思う。

スカウトコーナー

募 金 運 動

浜松第22団 ボーイ隊 齊藤幸弘

3月14日。ぼくたち、浜松22団は、結成してから二回目のぼ金運動をしました。一回目の日は、先週の日曜日になりました。その時は、近所でしましたが、今度は市の中心あたりでした。朝十時に出発し近くの駅から電車によって市の中心まで行きました。そこでぼくたちは、班ごとに決められた場所に行き初めました。「緑の羽根の募金お願いします。」と言いながらたのんだ。しかし通行人の人たちは見ようともしせずに通り過ぎていきます。ぼくたちは、はづかしながら「お願いします。」と言いつづけた。そのせいか、1人の学生が募金してくれた。「ぼくたちは喜んだ、そして大きな声で「ありがとうございます。」とはっきり言った。ぼくたちは、今までよりも大きな声で、言いつづけた。するとこんどは、七十過ぎぐらいの老人が募金した。こんども大きな声で、「ありがとうございます。」と言つ



た。でも老人は、こたえるように「これはなんですか。」と言った。ぼくたちは一瞬びっくりした。日本人の中にもまだ緑の羽根を知らない人がいるとは、と思った。でも気を思いなおし言いつづけた。「募金おねがいます。」すると、今までとちがって、こんどは調子よくいった。「ジャリン、ジャリン。」ずいぶん箱の中にはいっているようだ。しかしまだ三分の一ぐらいのこっている。そこでぼくたち班を二つに分けて、一つの班はいままで通りで、もう一つの班は、すこしはなれてやることにした。そのせいか、すこしはなれてやっている方がよくお金が集まった。が、時計を見ると、集合の時間になっていた。ぼくたちは、足を早めながら進んだ。すると、他の班がいた。まだ募金をしていた。見るとまだずいぶんのこっていた。が、ぼくたちはいちおう集合場所にそろった。そしてみんなそろったところで、もう一度残った羽根を売った。

無 線

浜松21団 ボーイ隊 富田辰美

「CQ、CQ、CQ、こちらはJ……」と今マイクを持って

電波を飛ばし交信できるのは、やはり隊長、その他、力をかしてくれた人々のおかげである。ハムをやり初めたのは去年の4月からで、講習会になる前に、友だちの杉山君といっしょに夜7時から、免許を持っている人に一時間おそわった。その間には、ぜんぜんわからない事があつたりして、「ハムになんてなるのはやめようか。」と考えたりした。そんな時には、やり初めた限りは最後までやろうと思ひ、わからない事は、わかるまで調べたり、聞いたりした。

そうして勉強を毎日やっていた。そしていよいよ講習会の日がやってきた。その時の講義はほとんどわかって、勉強したかゝりがあったとつくづく思った。そのため試験にも自信がもてた。そして合格通知がとどいた。その時とてもいい気持ちでした。そして今ではJ E 2 F M Tのコールサインがある。このコールサインで、顔を見たこともない人と話しをしていると、友達がふえるようで楽しい。その話す相手も、64才のおじいさん、ぼくと同じぐらいの人、高校生の人、そして成人した人、などいろいろな人と話しができるので楽しい。今このようにしてできるのも、ぼくを指導してくれた人や隊長、その他いろいろな人々のおかげである親切なご指導により自分でこれだけがんばってとったライセンスだから、いつまでも大切にしよう。そしてもっと友達をたくさんにしよう

楽しかった県大会

浜松第6団 カブ隊 服部 司

ぼくは、6団カブスカウトの1人です。10月に、中田島で県大会がありました。そうして、開会式が終つて、ワイドゲームをやりました。ぼくは、自分で作ったたこを上げましたが、風が強くて、少しばらばら雨がふつたりして思う様に上げられませんでしたけど、面白かったです。ボーイのお兄さんは、クッキーを作つたりして楽しい事をたくさんやっていました。ぼくもボーイのお兄さんみたいに、力の強い何でもできる男の子になりたいと思います。それよりも、もっと大きくなったら、隊長みたいになりたいと思いました。ぼくの団では、キクを作っています。ぼくのキクはうまくできたと思います。けどももっとうまい人もいました。今年はいろいろな種類のキクを作つてみたいと思います。

カブスカウトにはいって

浜松第15団 カブ隊 しか 豊田裕一

ぼくが、カブスカウトになって二年間、いろいろな事があつた。ぼくがまだうさぎのころは、組集会に行つても意見を出せなくいつも、「豊田君、なにかないかねえ。」と、おぼさんにいわれたが、意見を言えなかつた。また、組長にいじめられたりしたが、組長だつてうさぎ、または、しかの時、組長などに色々いわれたんだから、歯をくいしばつてがんばろうと思つた時もある。でもこのごろは、意見がだせるようになりカブスカウトがおもしろくなつてきた。それから、しゃ營の時など、めづらしい所に行つたりした。ぼくのむねに一番よくのこっているのは、デンマーク牧場だ。あまい、とりたての牛にゆうをたくさん飲み、体育館で遊んだ。体育館では、たつ球、ドッジボール、ミニテニス、などで、時間がくるまで、楽しく遊んだ。そんなことはふつうの子では、できないと思う。カブスカウトは、楽しみながら、りっぱな人になつていく所だ。これからもスカウトを続けて行こうと思う。またそれといっしょにスカウトせいしんを守つていこうと思う。

スカウトコーナー

雪遊びに行ったこと

浜松第21団 カブ隊 松本智博

日本ランドへ、雪あそびをしに行った。ぼくは、二度めだったけど、バスの中では、クイズや歌などとても楽しかったです。バスからおりると、冷めたい風が、はだにしみこんで、さむさは、たえられません。雪をけりながら、日本ランドのおくへと、進んでいきました。そこは一面の、銀世界で、みんなが、そりで、すべっていました。それをみていたら、ぼくはがまんができなくて「隊長早くそりをかして」と云いそうに、なっていました。午前中、ずうっと、そりですべってあそびました。のぼったり、すべったりで、とてもつかれた。ひるになったので、五組そろってカブ弁当をたべました。おなか、すいていたので、とてもおいしく食べました。そこで、自由時間は何をしておそぶか、話し合をした。ぼくと、加藤君はお金つかわなくて、そりであそぶ方がいいと云って、時間いっぱいあそんだ。他の人たちは、デンマザーといっしょに上の方へ、上っていきました。ぼくは加藤君と、あそぶくないところ、みんながくるまであそんでいた。ぼくたちは、なぜお金をつかわなかったかと云うと、帰りにおみやげを買いたくてつかわなかったんです。2時ごろになったので、日本ランドから、帰るのをしめながら、2時30分、日本ランドをあとにしました。京ちゃんは、雪をまるめて家にもってききました。いもうとや、おとうとに見せてやるそうです。ドライブインで、ぼくは、あんまきをつけて、バスの中でたべた。みんなは、ものすごくきれいなナイフを、かっている人が、多いなあと思った。7時頃家についてから、あんなに楽しいところなら、何回いってもいいなあと思いました。ぼくは、あのゆう大な富士山のある静岡県に生れて、「しあわせだなあ」とつくづく感じました。おふろに入って、ふとんに入ると、すぐぬむってしまいました。とてもつかれました。よく朝、足が少しいたかった。でも楽しかったです。

カブスカウト活動について

浜松第14団 カブ隊 松下寛之

ぼくは、4年生の時にカブスカウトに入隊しました。それはぼくが4年生のときに14団がはっ隊したからです。カブスカウトにはいろいろな行事でいっぱいです。それにどれも楽しい行事ばかりです。だいたいいまっている行事は、地区大会や県大会、はっ隊式。それに夏には楽しい舎えい、などです。2月にはビービー祭(バーデン・パウエル、ボーイスカウトをはじめてつくった人のたん生日)です。それには、ここらへんの中央ブロックのたくさんの方の団の人たちで集会を開きます。ほんとうはカブスカウトにはいる前に、リスの道というのをやっかかり入隊します。ぼくも今、ボーイスカウトのかり入隊で、月の輪隊です。月の輪隊はぼくだけではありません、7人の仲間がい



ます。ボーイスカウトになるとカブスカウトのようにはいきません。年上のボーイスカウトの人たちの命れいどうりにします。

カブスカウトの3年間のカブスカウト生活はボーイスカウトへのじゅんびだとぼくは思っています。

「もちつき大会」

浜松第15団 カブ隊 平山一久

ぼくがカブ隊に入って、いろいろな行事がありました。舎えい、地区大会、クリスマス、ハイキング、緑の羽根共同募金、中田島の初日の出、まだいろいろありますが、その中でも一番印象に残ったのは、もちつき大会です。いつもぼくは、でき上がった四角く切ったもちを食べるのですが、カブ隊では、米からみんなで作った、つきたてのもちを食べさせてくれるので、ぼくはとても楽しみです。



三年の時、初めてもちつき大会に行ったので、ぼくは、どうゆうふうにするのかとても興味がありました。そうしたら、もち米をふかして、ふかしたての熱いもちを、うすにうつして、きねでついていました。ひとりが手に水をつけて、もちをうら返しにしたりこねたりします。つくのはたいがいおとうさんでもちを返したりするのはおかあさんがやります。ぼく達も、二、三回つかしてもらったけれど、とても重いのでやっぱりおとうさんの役め、だと思いました。ぼくは、おもちはこうしてできるのかと思うと、とても大変だなあと思いました。

ぼくたちは、つきたてのもちを、お手伝いのおかあさん達にあんこ、きなこ、大根おろしの三種類のおもちにもらって食べさせてもらいました。その中でも、大根おろしのからみもちはとくにおいしく、家でもそれをまた作ってもらって食べたくらいです。ぼくは、もちつき大会が大好きです。

雪遊び

浜松第21団 カブ隊 鈴木久裕

きょうは、とてもいい天気だ。バスの中でも気持ちがいい、バスに乗って何時間かたったら富士二合目の日本ランドへついた。この前いったときとだいぶちがった。午前中まっ白な雪の中をそりですべった。風がとってもつめたく気持ちがいい。ときどきころんでズボンに雪がつく、とってもつめたい、おしりが氷りそう。『およげたいやきくん』と『1本でもニンジン』のレコードを何回もくりかえしくりかえしかけてくれた。でも、そんなもの耳に入らない。雪あそびにむちゅうで、「ヤッホー」など言いながら遊んでいた。そのうちにおべんとうをたべて自由時間になった。今度は乗り物に乗った。いちばんおもしろくてこわかったのは『ジャングル=アトレンジャー』だ。ジェットコースターとおぼけやしきをまぜたみたいだとてもおもしろい、でもものすごいスピードでUターンするのでふりおとされそうだった。また少し雪で遊び帰った。帰りはもうまっくらだけどとても楽しかった。

スカウトコーナー

御殿場に行ったこと

浜松15団カブ隊 4組 大石好彦

ぼくは、雪で遊ぶのは、初めてなのでとてもうれしかった。行先はユースホテルで車とバスで行った。ついて、部屋にはいったら、そこには、二段ベッドが4つあり、7人入った。次の日、朝食を食べて、日本ランドへ行った。行ったらすぐに村松君とそりで遊んだ。6才の弟も来たので2人でいっしょにすべったりして、おもしろかった。とちゅうでみんながいなくなったのでさがしたら同じ組の川田君がいたので聞いたら、「食堂の中だよ。」と言ったので入って見た。昼ご飯を食べ一度ユースホテルに帰り、ぬれたパンツをかえて外へ出た。4組は車で行き、とちゅうの富士川サービスエリアでこうたいすることになった。だけど、4組は車の方がいいのでかぎをしめてしまった。1組や2組がきてあけなかつた。でも悪いと思ったトンネルの中に入ると空気をすうのをやめて、出口までがまんする遊びをした。けれど日本坂トンネルはみんなががまんできなかった。とてもたのしかった。



緑の羽根募金

浜松第6団カブ隊 和久田茂夫

ぼくたちカブ隊は、24団発団式にいき、それから緑のはねの募金に行きました。二組のぼくと内山君は月の輪組をやってから、みんなのいるところまで、行ってやり二つにわかれて、やっていた。ぼくは、丸井の前で、青木、山口、たちとやっていた。「緑のはねご協力お願いします。」とかけ声を出してはげんでいた。入れる人にもいろいろあり、すどろりで行く人もあれば、20円50円 100円と入れる人がある。ときには、歩いてはこの中にお金を入れて、すぐにいってしまう人もあった。そんなときには走って緑のはねをわたしたりした。でもそうした中からいちばん最高なのは女の人でまだわかい人で千円をいれてくれたときにはぼくたちはとてもうれしかったです。時間が二時半に集合ということだったのでそろそろいっておばさんがたいやきをかいてやる。といたのでぼくたちはあるきながらいって地下でおばさんをまわっていました。ぼくたちは、もう一組の人たちに千円入れてくれた人があるかといっただけでした。緑のはねを売ったあとのたいやきはとくべつおいしかったです。カブやボーイでこういう募金をますますやりたいです。

スキーに行つて

浜松第14団カブ隊 1組 大島裕之

9時30分ごろ鈴蘭高原に着いた。こな雪まじりの風が、ぼくに、みんなにふいた。次の朝早く、目がさめた。星がうすく出ていた、晴だった。今日は、思い切りすべるぞ。と、思った。山のしゃ面をスキーで下りた。思わず、「ヤッホー。」と、さげたくなるような感じだ。ある時は、雪にうまりそうになった。また、ある時はころんでひざがいたかった。弁当の時も、帰りのバスの中でも、スキーの事が頭にうかんでいた。とても

楽しい日だった。

ぼくとカブ活動

浜松第14団カブ隊 富田佳明

ぼくは、もうすぐくまになります。そしてまたカブ隊活動も三年間になります。ぼくは、この十四団のカブ隊と、共に三年間歩んできました。二年前の発団式。その時は少しあがってしまいました。だって初めてのカブ活動だったのですから。リスの時行った、1団の訪問。それもまたわすれることはできません。そしてまた三方原の畑で作ったものいろいろ。そしてまた売た14団ボーイ隊の10周年とても楽しかった。その後やったつなわたりなどわすれがたいです。そして初めてキャンプ前の日にはむずむずしてしまいました。秋葉山のキャンプファイアーもすばらしかったです。そして次の年二泊三日の観音山のキャンプこれはきびしくウオークラリー、オリエンテーリングなど楽しかったり疲れしました。いろいろなキャンプの行事がありました。そのころにはもうしかになっていました。夏のごぶりじいさんがよくでき、また伊場遺跡、版画もよくできました。そしてスキー、初めてでした。そして初めてくまになれる。とてもうれしいことです。がんばろう。

緑の羽根募金

浜松第6団カブ隊 田中知幸

ぼくは、カブになってはじめて緑の羽根の募金をやった。はじめはそわそわしたがやっているうちに楽しくなってきた。いろいろな人がきょうりよくしてくれたその中で百円をいれて羽根はいらぬいとっていった人もいます。ぼくは、こんなに親切な人がいるんだなあと思いました。カブに入っていろいろなこと、いろいろな人とあつて大変うれしかったです。

カブスカウト

浜松第15団カブ隊 小林正典

ぼくが、カブスカウトに入隊して、もう丸二年たちました。青少年の家、ハイキング、クリスマス会、もちつき大会、舎営など楽しい行事がたくさんありました。このあひだは、緑の羽根募金運動に参加しました。ぼくたちの組は、3月19日に、新川橋の上の両側に別れて、実行しました。その日は、おひがんの入りと言うのに、とても寒く、手足、耳がとてもつめたかったし、人通りもあまり多くなかったので、歩き回って売りました。すると、つきそいのおばさんが、「そんなに歩き回っても売れないよ。」と教えてくださいました。あまり売れがよくないので松菱へ、移動しました。いっしょけんめい売っていると、さっきまで寒かったのが、あたたかくなりました。売るときのコツも、場所もあまり移動しない方がよく、大きな声で元気よく、それぞれいろいろおぼえました。この集まったお金で、ぼくたちの県などが、緑でふえると言うことに役立つんだと思うと、やりがいがあったと思いました。



第一回ボーイスカウト写真コンテスト

- テーマ ボーイスカウトの活動や生活をテーマにしたもの。友情交換、奉仕活動、県大会、隊活動（キャンプ、舎営、集会）など昭和51年4月より昭和51年9月までに写したものの
- サイズ 白黒又はカラー、キャビネ版（ネガは大切に保存しておいて下さい）
- 応募点数 制限なし
- 賞 賞状並びに豪華賞品多数
- 審査 富士写真フイルム株式会社

- 締切 昭和51年9月20日
- 主催 「スカウト浜松」
- 後援 富士写真フイルム株式会社、静岡県写真材料商業組合西部支部
- ◎応募作品は富士フイルム使用のこと
- ◎コンテスト要項詳細は次号64号（51年7月）「スカウト浜松」にて発表
- ◎多数のご応募をお願いします。

うごき

- 50. 12. 14 浜松第23団（志都呂町）結成説明会（志都呂幼稚園）
 - ♪ 中央ブロック会議（法林寺）
- 18~19 浜松地区周年会（館山寺遠鉄ホテル加館）
- 19 浜松第11団斉藤君オーストラリアS・Sジャンボレット海外派遣出発
- 20 事務長会議（県民会館）
- 50. 1. 1 日の出選拜式（中田島海岸）
- 10 コミッショナー・トレーニングチーム・事務局合同会議（住吉園）
- 11 浜松第24団（曳馬町）結成説明会（曳馬小学校）
- 13 西部ブロック会議
- 15 浜松第11団斉藤君オーストラリア派遣帰国報告会（遠鉄健保会館）
 - ♪ 県西部指導者養成委員会（法林寺）
- 18 S・Sリーダー研修会（後期）（沼津少年自然の家）
 - ♪ 中央ブロック会議（法林寺）
- 20 コミ・事務局会議（法林寺）
- 21 S・Sリーダー研修会打合せ会議（法林寺）
- 24 県無線クラブ打合せ会（県民会館）
 - ♪ 浜松第24団説明会（助信公会堂）
- 25 S・Sリーダー研修会（後期）（浜松・青少年の家）
- 27 引佐ブロックリーダー研修会についてトレーニングチーム打合せ会（法林寺）
- 31 地区コミ・事務長合同会議（静岡魚磯）
- 2. 1 S・Sリーダー研修会（後期）（静岡青年会館）
- 3 S・Sリーダー会（市川事務所）
- 5 組織拡張委員会（法林寺）
- 6 51年度登録事務説明会（法林寺）
- 7 県組織拡大委員会々議（県民会館）
- 7~8 引佐ブロックリーダー研修会（細江町 長楽寺）
- 10 コミ会議（法林寺）
- 12 浜松第24団結成準備会議
- 15 浜松第23団隊審査（志都呂幼稚園）
- 16 第11期（50年度）班長訓練野営下見（渋川野営場）
- 17 緊急ゴミ会議（法林寺）
- 21 県理事会（県民会館）
- 22 各ブロックごとにB-P祭実施
 - ♪ 県大会会場下見（朝霧ジャンボリー会場跡）
- 24 コミ会議・班長訓練野営スタッフ会議（法林寺）
- 28~29 全体リーダー会（青少年の家）
- 29 浜松第23団結成式（志都呂幼稚園）

- 29 隊表彰・年功章申請書締切日
- 3. 4 緊急団委員長会議（法林寺）
- 5 中央ブロック組織拡張委員会々議（法林寺）
- 6 地区コミ・事務長合同会議（県民会館）
 - ♪ 県S・S特別委員会（静岡護国神社）
- 7 浜松第24団隊審査（曳馬小学校）
 - ♪ 51年度登録申請書受付（法林寺）
 - ♪ 班長訓練野営参加申込受付（法林寺）
 - ♪ 野営行事委員会々議（法林寺）
 - ♪ 県C・S作業班チーム会議（静岡・青年会館）
- 8 中央ブロック会議（法林寺）
- 10 西部ブロック会議
 - ♪ 緑の羽根 街頭募金開始
- 13~14 浜北ブロックリーダー研修会（平口不動尊）
- 14 浜松第24団結成式（曳馬小学校）
- 19 班長訓練野営用食糧調達
- 21 袋井第4団結成式
- 22 地区団委員長会議（法林寺）
- 25~28 昭和50年度第11期班長訓練野営（渋川 川字連野営場）
- 26~29 第4期静岡県S・Sアドベンチャーキャンプ（富士山グリーンキャンプ場）

あとがき

◎桜花爛漫、街にはスカウトの緑の羽根募金活動、山では恒例の渋川班長訓練野営、又楽しい入隊式等、春はスカウト活動の出発点である。

◎本号は中央ブロック担当にて、組織拡大、B-P祭、団委員紹介、スカウト記事等を主に編集。次号64号は南部ブロック担当にて班訓野営、県大会等にて7月に発行予定、ご期待下さい。

◎新しい試みとして写真コンテストを行います。カブ、ボーイ、シニア、ローバーのスカウト諸君、リーダー、団委員、育成会員の皆さん、日頃の腕にヨリをかけて名作品をドシドシ写して下さい。詳しくは次号で……。
(SY記)

発行所	第63号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所 浜松市利町70-4 児童会館内	
編集発行責任者 山中将司	
印刷所 朝日堂印刷所	
昭和51年4月1日発行	